

洋書輸入協会会報

VOL. 4

NO. 3

(通巻35号) 昭和45年3月

理事会報告

2月10日(火)理事会

- (一) 一月分収支計算表・予算対比表検討。問題なし。
- (二) IRM - Moody's の件経過報告。
- (三) 洋書輸入協会へ雄松堂より竹内書店紹介にて入会の希望があった件検討。
- (四) ホンリユウ・コーポレーション閉店に関する件検討。
- (五) フランス郵送料値上りに関連する件検討。
- (六) Penguin 社より、シベリヤ鉄道経由発送の実験中止に関する通知のあった旨報告、諒承。
- (七) McGraw 社の雑誌に関するクレーム多発の現状検討。関係者にて Mr. Owens を訪問善処方を申し入れることとする。

2月12日(木)

IRM - Moody's 問題対策委員会開催。

IRM 志賀氏と丸善、U S、海外、日貿、紀伊國屋出席の上数時間にわたり意見交換、今年度分についてのみの諒解点に達する。

2月20日(金)

McGraw 雑誌に関する諸問題打開のため、丸善、U S、海外、日貿、紀伊國屋の五社にて Mr. Owens を霞ヶ関ビルに訪問、善処方を要望する。

2月26日(木)理事会

(一) 総務委員会報告

- (1) 理事会懇親会収支報告。
- (2) IRM - Moody's 問題に関する結果報告。
- (3) 雄松堂入会希望に関する検討結果異議のない旨報告。
- (4) 総会準備に関する件。

3月10日理事会までに各委員長より予算請求案提出のこと。

2月末までの時点で、協会収支に関する予備監査を受け、総会準備を早めたい旨の提案、諒承。

4月末頃総会を開催したい旨の報告。

(二) Harvard Business Review に新たに総代理店を設けられた旨検討。

(三) McGraw の Mr. Owens 訪問の状況報告。

(四) 仏文庫本値上りの件検討。

(五) 英国 New Decimal Currency の件検討。

現況では資料不足のため、各出版社の日本代表及び英国 Book Development Council 経由情報収集を計り、その上で対策を検討することとする。

(六) 経営委員会より、懇談会を3月10日に開催する件報告。

労使問題研究会ひらく

＝中小企業同友会労対委員長村松氏を囲んで＝

さる3月10日、出版クラブで経営研究委員会主催の研究
会が開かれました。テーマは「労使問題について」で、東
京中小企業家同友会労働対策委員長（童心社社長）の村松
金治氏が講師として出席しました。石内茂吉経営委員長
（東光堂書店社長）の開会あいさつのあと、別稿のとおり
講師のお話しと意見交換が行なわれました。当面の労使問
題の中心が春闘対策であるため、講師のお話しも参会者の
意見もほとんどこの問題に集中されました。

（講演要旨）

1. 45年度の春闘の特徴

当初、総評には春闘を6月までねばり、安保と結びつけ
ようという構えがみられたが、総選挙での社党の敗北によ
って、政治的には戦術ダウンがみられます。しかし経済的
にはかなり強い姿勢でくるでしょう。5ケタの要求をだ
し、5ケタの解答をとるという態度をとっており、減税、
物価値上反対など、対自治体、対政府要求、つまり国民的
諸要求を同時にだしてきています。

今年は万博の年で、例年の相場メーカーの一つである私
鉄が労使双方ともストを回避したい意向をもっており、こ
のため相場が高くなりそうです。鉄鋼、電器関係も好景気
のためかなり高額になりそうです。一方、高度成長政策の
結果、物価の値上がり、人手不足はますます深刻になりそ

うです。（別表①参照）今年の春闘には以上のような背景
があります。

2. 出版関係の春闘の要求

出版労協などの資料によると、今年は1万ないし1万5
千円の要求になりそうです。労協の統一要求額は、30才で
1万2千円（基準内）の賃上げ、初任給を中卒3万円、高
卒3万4千円（昨年要求2万9千円）、大卒4万円（3
万5千円）、家族手当1人5千円となっています。つま
り、平均年令が30才以下だと1万円前後、以上だと1万5
千円前後の要求になります。

このほか、定年制の60才迄延長、週休2日制、週40時
間、健康保険5割負担を3割負担へ、通勤費の全額支給、
住宅手当、退職金の増額などの要求がでています。また、
組合活動の自由、スト予告の廃止など権利の要求もありま
す。

3. 出版労協加盟企業の44年度の賃上げと平均賃金

昨年の賃上げと平均賃金は別表②及び③のとおりです。
賃上げ額では6千円台、7千円台に集中しており、平均賃
金では4万円台の企業がいちばん多くなっています。平均
賃金が6万円台～9万円台と比較的高い企業は平均年令が
30才前後と比較的高く、3万円台～4万円台は取次店や教
科書関係に多いようです。昨年全産業平均賃上額は

6,817円でした。

4. 今年の相場

NHKでは1万5千円の要求に対し、8,768円の回答がでており、中小企業同友会関係でも、すでに9千円とか1万円で妥結したところがでています。出版関係では、別表②のように6千円台から7千円台に集中していたのですが、今年はこれが1段階上がって、7千円台と8千円台になりそうです。

妥結は例年よりやや遅れ、4月20日～25日ごろの見込みであり、あまりあわてないで、世間相場と支払能力をみながら、じっくり構えたほうが良いようです。

——質疑応答・意見交換——

このあと質問に入り、賃上げをどう消化するか、など深刻な問題をめぐって意見が交わされました。問題点としては、賃上げと生産性向上の問題、出版部門と小売部門との違い、賃金総額に占める基準内賃金の割合、査定可否と比率、などでした。

昨年の中小企業の賃金上昇率は平均16.5%で、この調子

だと来年の見通しは立っても、3年先、5年先には企業はパンクするほかないのではないかと、というのが参会者共通の意見でしたが、結局、団交などの場を利用して生産計画や販売計画を労働者に消化させるための努力をねばり強くやる以外にないという結論になりました。そして、賃上げには、無い袖はふれぬという姿勢ではなく、相場を見つめながら、生産・販売計画にもとづく資金繰りを確実に押えて対処すべきだと強調されました。

出版関係は一般に高賃金の企業が多く、小売関係の労働組合が出版労協に加盟すると、小売の企業にとっては実状にそわない点が生ずるから、書籍小売関係労組の上部団体ができると都合が良いという意見もだされました。

退職金の増額要求と関連して、その計算対象となる基準内賃金を賃金総額の中でどの程度に押えるべきかも深刻な問題の一つでしたが、70～80%が妥当な線だということでした。また、査定には昇給額の20%以下を振り向けるのが一般的のようだとのお話でした。

(文責＝東光堂書店・川越)

表① 雇庸充足率(%)300人以下の企業

学 年 度	卒 中	卒 高	卒 大
40	47.3	67.4	
41	43.5	77.4	82.3
42	38.0	66.5	80.2
43	33.4	59.3	73.8
44	29.4	47.9	70.4

表② 出版関係44年度の賃上額

10,000円台	17社
9,000 "	4 "
8,000 "	11 "
7,000 "	14 "
6,000 "	24 "
5,000 "	11 "
4,000 "	8 "
3,000 "	1 "
2,000 "	1 "

表③ 出版関係44年度の平均賃金

9万円台	1社
8 "	2 "
7 "	6 "
6 "	9 "
5 "	19 "
4 "	33 "
3 "	20 "

私の欲しい本

菅

貢

私の父は田舎の所謂「物好き」でした。刀剣と道具類がその主な対象でした。小さな田舎町の近くの農村に住み資力ありませんので餘なものは持てないのですが好きという点では人一倍でした。時には無理をして母が家計の遣り繰りに困って愚痴をこぼすのを聞かされたこともありましたが、私は父の血を多分に受けついでらしく古物が大変好きでしたが、母親を苦しめる様なことをしてはならないと考え青年時代までは意識的に此の方面には近寄らないようにしておりました。ところが社会に出てからさる大先輩が一つ位は是非趣味をもつようにとすすめて下さいますので、見る位程度なら迷惑をかけるようなことも起るまいという訳で絵画の鑑賞をし始めたのです。

最初は新古の日本画でした。ついで日本画が絶対的な影響を受けた支那の絵に入門したのです。絵そのものを買って鑑賞することは貧乏役人たる当初の私にはとても出来ませんので、勢いポケットマネーで図録や画家の伝記や画談類乃至は美術史や美学書を買って「読む勉強」に熱を入れたのでした。その頃はもう第二次大戦に入る頃でしたので、美術書類は新しい出版は固より古本も神田・本郷あたりでも追々と減少しておりましたが、それでも時には自分乍らによい買物が出来たりして大変に楽しい思いをしたこともあり、又暇さへあればそうした書物を拾い読んで、殺風景な戦時中の芸術的渴望を満たしておりました。通勤電車の行き帰りにはポケットに携えていた岩波文庫の星一つの薄い本で「論画四種」など何度か読み返し田能村竹田の「山中人懐舌」の一部など暗記して了っておりました。しかし乍ら終戦に及んで西洋のものを今一度虚心坦懐に見直す可きだという気になりましたので、その勉強を始め又画集や研究書なども手に入る範囲で買うようになったので

す。以来十年ばかり私なりに日本、東洋と西洋の絵画をあらまし通観して後、到達した結論は、世界の中に於ける日本画の地位如何ということになりました。そこで先づ日本絵画の源流たる原始絵画即ち少くとも仏教渡来以前の日本絵画の真の姿を見なければならぬという気持ちになり、こゝ十数年はこゝに的をしぼって勉強しています。その為には独り日本だけでなく当時乃至それ以前の日本周辺地域、ひいては全世界各地域の原始絵画をも見なければならぬということになります。

然し乍ら原始絵画そのものの遺跡や遺物は非常に限られた数量しか残存しておりませんので、かゝる直接資料の発見増加を待望すると共に、ひとり絵画関係のみでなく原始時代に関するあらゆる分野の間接資料をも広く探して原始絵画の正しい像をつくり上げねばならないと考えます。これはまさに大変な大事業ですが、ひとり文献的資料だけでも和漢洋に亘って蒐集するとなりますと、私のような本業があって余暇に勉強している街の研究者にとっては実に骨の折れることなのです。それでも日本関係の文献資料については、極く特殊なもの以外は日常の新聞紙や雑誌等に出版案内が出て、ある程度は知る機会があたえられますが、外国書に至っては殆んどその機会がないように思うのです。この不便を緩和する方法があれば私共はどの位幸いするか知れません。辛い当輸入協会あたりで海外主要の書店の出版目録を集められ、各部門毎に書名、価格、出版元などの一覧表を作成してもらい、月毎でなくも3ヶ月或は4ヶ月毎位に、需要に応じて頒布することにしてくだされば洵にありがたいと考えるのです。勿論無料でなく適当に有料にもらって結構と考えるのですが如何なものでしょうか。（筆者は幟北荘画廊社長）

洋書こぼれ話

戦前の洋書輸入業者団体と戦時中及び

輸入再開後の思い出

石 川 実

先般丸善の木下さんと協会の寺久保さんから会報に連載して来た「洋書こぼれ話」の次回テーマとして、「戦前の洋書輸入協会について、また戦時中また戦争直後の洋書の輸入について」書いて欲しいとの申入れがあったが何分にも20年、30年も前のことであり、生来記憶が悪く、それに記録や資料も揃っていないのでとても小生の手におえぬからとお断りしたのだが、たつてとのことであり、また不完全であってもいづれ諸先輩方に補っていただく材料になればと思い、お引受けすることにした。従ってその内容には足らぬところも多いし、また思いちがいもあるかと思うがその辺はお許しを願い、後日先輩諸賢から更に教えを受けて完全なものにさせていただきたい。

戦前の輸入同業者の会と輸入事情

戦前の輸入業者の会の名称は洋書輸入協会でなく、海外出版物輸入同業会という、しかつめらしい名称を用いていた。この輸入同業会が設立された経過、或はその活動については後述させていたべくこととして、その母体ともいべき洋書輸入懇話会とその前身である外誌クラブについて一応述べて見たい。

この外誌クラブは当時官庁、大学等からの外国雑誌購読の予約の受注に際しての見積合せに過大な競争が行われ、終には採算無視の馬鹿げた入札が行われるようになったので、丸善、三省堂、三越、南江堂の四社が非公式にこの名称を採用し、この四社が共同して適正な為替換算率の設定、官庁、大学等に対して外国雑誌予約業務の特殊性の説明とその理解を得るに努力して一応その成果を納めるに成功したのであるが、洋書輸入業者の団体行動としては小規模ながらこれが最初ではなかったと思う。いつこの外誌クラブが出来たのか其時期は明らかなでないが昭和10年以後と思われる。これにいつしか国際書房とパート商会が合流し

て洋書輸入懇話会となったのだが、これは輸入為替許可制が制定された昭和12年後であったと思う。

さて私共の大先輩である福本書院の福本初太郎さんや国際書房の服部正喬さんの記事にあったように才一次欧州大戦以後我国に於ける洋書の需要は上昇の一路をたどり、昭和6年の満州事変勃発後も洋書の輸入は数字の上では大した影響もなかった。然し国際関係の悪化、そして国内の戦時体制の強化につれて、思想関係の輸入の抑圧が始まり、終に内務省警保局に於て輸入禁止と決定されるものが続々としておこり、そのリストが次々に洋書輸入業者へ交付されるようになった。また所轄署の警官が書店の陳列棚を調べて該当書があれば容赦なく没収して行くようになった。

他方各税関に国書検閲係が設置され、通関に際して検閲、発見されれば没収されることになった。横浜税関では監視部に図書検閲係が設けられ、横浜郵便局では外事係がこの検閲を担当し、随時郵便小包、ブックポスト等を開封、検閲することになった。

この仕事は税関当局としても難事業であって、横浜税関の場合、輸入申告書に添付するインボイスの一枚一枚に各書名毎に業者が分類を記入するよう指示され、これにより事前にチェックして疑わしいものだけを検査するようにされたが、ご承知のようにインボイスの中には手書のものや、略記のものがあって、当局も業者も共に苦勞したものである。

思想関係の洋書の輸入禁止について起ったのは不要不急書の輸入制限である。昭和12年、輸入為替許可制の採用また輸出入品等臨時措置法が制定されるに及んでこの不要不急書の輸入を差控えるようにとの要請が強くなって来た。然し不要不急書として厳密の判定を下すことは非常に難しいものもあるので、懇話会は大蔵省、文部省等にも陳情、当分は輸入業者の良識と協力に任されたのであった。そし

て上記輸入許可制の施行後は洋書の輸入は過去の実績に応じて無為替輸入許可証の交附を受け、その範囲内で適正な輸入をはかるという事になった。

昭和15年12月、内閣情報部は内閣情報局となり、図書の出版、販売の全面的統制をはかることになったが、洋書の輸入もまたその管轄下に入るようになった。そして間もなく同局内に洋書輸入審議会が創設された。情報局の担当官・陸・海軍・文部・大蔵・外務各省の関係係官によって構成され、その会合の際要請によって洋書輸入懇話会の代表として丸善の洋書担当の取締役山崎民雄氏と当時丸善の外国課長として洋書の輸入を担当していた小生が出席した。常に軍部側の主張が強く、陸軍省を代表していた鈴木庫三少佐が前についたサーベルで床をたきながら高圧的に発言していた姿を時々思い出すことがある。

この審議会の目的は為替制限強化の為に、不要不急書の輸入を抑えると共に時局に即応する重要書を早急に輸入したいということであった。そしてその為に輸入業者の積極的な協力を求められたが、洋書輸入懇話会の全員で或いは個々で情報局の担当官と会談、洋書輸入の実情を詳説して理解して貰うように、また事務の簡易化、或は輸入活動のしやすいよう配慮を得るよう努力したが、業者の完全協力体制が必要となり、当局の指示もあり、昭和16年3月3日、海外出版輸入同業会が結成されることになった。

メンバーは19社、昭和14年、15年の2ヶ年以上にわたって洋書輸入の実績を有するものということであった。その時の役員及びメンバーをご参考までに下記する。

理事長	丸善株式会社	山崎民雄	東京、日本橋
理事	三越	桜井信四郎	〃 〃 室町
〃	三省堂商事株式会社	永井茂弥	〃 小石川春日町
〃	南江堂	小立鉦四郎	〃 本郷春木町
〃	国際書房	服部正喬	〃 神田小川町
〃	バート商会	弘田親輔	〃 麴町丸の内
会員	日独貿易株式会社	作田敏世	〃 日本橋室町
〃	一色商店	一色頼一	〃 大阪、北区梅松町
〃	教文館	殖栗文夫	〃 東京、京橋銀座
〃	欧亜書房	ルーベルト・エンデルレ	〃 新橋
〃	グスタフ・フォック	イダ・ワフテル	〃 銀座

〃	オスカー・ロータッゲル	高山三郎	〃 本郷元町
〃	東京出張所	福本書院	〃 本郷
〃	福本書院	福本初太郎	〃 本郷
〃	金原書店	金原作輔	〃 本郷
〃	山川商会	山川隆雄	〃 銀座
〃	東光堂書店	石内茂吉	〃 神田錦町
〃	三羊社	西田和四郎	〃 下谷
〃	大竹書店	大竹孝吉	〃 名古屋、老松町
〃	西村書店	西村吉久	〃 東京、京橋

以上十九社

最初の情報局の担当課長井上二郎氏（歌人・返子八郎）

は洋書に対しまして業者に対しても理解があったが、審議会の空気は厳しく、終に発注前書目リストを、後には1点、1点カードにして提出、同課のOKをとってから発注することになった。同16年6月、独ソ開戦となり、シベリヤ便は忽ちに杜絶し、爾後欧州よりの洋書輸入は郵便も船積荷物もスエズ或はケープタウン経由となった。然し続いて各国の我国資産の凍結、輸出禁止が始まり出したが、このような状況が察知されるようになってから政府は各方面からの強い要望により慌てて理・工・化・技術関係及び緊急に必要なと思わるる洋書の超特急での輸入を計るよう情報局を通して業者に要求され、そのため為替の包括許可を許し、また（秘）ニュースまで提供され、業者もあらゆる手段を講じてみたが既に時期遅く、欧州・英国などよりの最後の邦人引揚船などによる引取りも行われたが、一部分の輸入に成功したのみで全年12月、大平洋戦争の勃発によって洋書の輸入は全面的に杜絶することになった。

戦争勃発後情報局の洋書担当課長は古海海軍中佐となり、戦争遂行に役立つ書籍を出来る丈入手するよう努力せよとのことで占領下の仏印、シンガポール、馬來、インドネシアの各都市、マニラ等に於ける書店の在庫書、大学、研究所、調査機関等より発行の研究、調査報告書等の調査並びに蒐集をして来るようにとの命令により輸入同業会から選ばれて、三越の書籍部顧問の玉井弥平氏、丸善外国課仕入係長の上住菴氏と小生が情報官鈴木謙介氏に同行、昭和17年11月東京を出発、途中二班に別れて上記の各都市を視察、調査し、翌18年2月末帰国したが結果的には何の成果もなく残念に思っています。（筆者は丸善参与）

海外ニュース

「アメリカの出版統計」

Publishers' Weekly 誌が、去る2月9日に発表した統計によれば、アメリカの1969年の総出版点数は、3万点をわずかながら割って前年よりも下回る結果となった。

1968年は、新刊23,321点、重版7,066点、合計30,387点であったが、これに対し1969年は、新刊21,787点、重版7,792点、合計29,579点となっている。この数字にも明らかに新刊書の減少が目立っている。またペーパーバックの出版点数の減少が著しく、種数の如何を問わず殆んどすべての分野で、前年度よりも下回っている。

(Publishers' Weekly, 1970年2月9日号より)

「バーンズ・アンド・オーツ社閉鎖」

ロンドンの、1847年創業という古い歴史をもつ、カトリック系の出版社、Burns & Oates が、2月10日にその事業を閉じることを発表した。

ここに到ったのには、他のカトリック系の出版社と同様、第二回バチカン会議から蒙った影響が大ききようである。この第二回バチカン会議の結果、神学書やミサなどの儀式に関する殆んどすべての本が時代遅れとなり、また読者の嗜好にも大きな変化をもたらし、度重なる礼拝書などの変更は、ミサ典書や祈禱書を使えなくしてしまったのである。

なお、Burns & Oates 社は1967年以来、西ドイツの Herder 社に所有されていた。

(The Bookseller, 1970年2月14日号より)

「ヒース社とグレッグ社合併」

アメリカの D. C. Heath and Co. とイギリスの Gregg International Publishers, Ltd. は、原則的に合併に同意したことを発表した。

グレッグ・インターナショナル社は、音楽、書誌、神学、美術、考古学、アフリカ関係、オリエント関係、宗教、法律、歴史などの学術書のリプリントで知られており、一方、ヒース社は、小学校から大学に到るまでの教科

書の大出版社である。

この合併は、本年半ばに実施されるものと予想されている。(Publishers' Weekly, 1970年2月23日号より)

——紀伊國屋書店提供——

ニュース

- 英国 Wm. Collins, Son & Co., Ltd. の Mr. David C. Hays 2月中旬来日。
- 米国 Kraus-Thomson Organization Ltd. の Mr. Frederick Altman 2月中旬来日。
- 米国 Fred B. Rothman & Co., の Vice President, Mr. Paul A. Rothman 2月中・下旬来日。
- 英国 Macmillan & Co., Ltd. の Mr. Byam Shaw 2月中旬来日。
- 仏国 UNESCO, Directeur du bureau des documents et publications の M. Gilles Souriau 3月上旬来日。
- 英国 Faber & Faber Ltd., の Director, Mr. P. T. Crawley 3月上旬来日。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店のご案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

丸善株式会社 ☎ 272-7211

Applebaum, L., P. Riess & A. Lieberman. —
Glossary of United States Patent Practice

(Clark Boardman/Sage Hill) ca ¥ 6,000

Tripp, R. T. (Compiled). —

The International Thesaurus of Quotations

(Thomas Y. Crowell) Plain ed. ¥ 3,580

Thumb indexed ¥ 4,000

お知らせ

次の通り電話番号並に地番変更通知がご座いましたので、お手許の会員名簿のご訂正をお願い致します。

☎ ユー・エス・エシアテック カンパニー

4月1日から ☎ 502-6471代

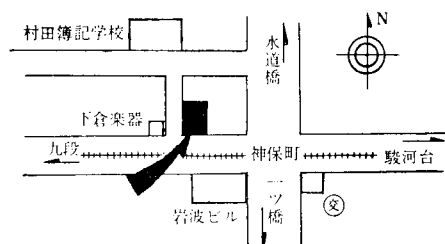
日本洋書販売配給株式会社(洋販) 仙台市国分町3-9-14
仙台出張所

豊富な在庫をごらんになれる
新しい洋書販売店

日本洋書センター

をご紹介します。

ご案内図



大学の街神田に誕生いたしました日本洋書センターは、各分野の専門店がお客様に書籍を手にとって見ていただく為のものです。

各社、協力と競争を仲よくやって新しい需要を開拓し、学術の振興と業界の一層の発展にお役に立ちたいと思っております。

日本洋書センター

東京都千代田区神田神保町2-2

☎ (263) 6801 (代表)

営業時間: 10.30 ~ 19.00

定休日 毎日曜

祭日は営業いたしております。

当社同様お引立てをお願い申し上げます。

スタッフ社

アカデミア・ミュージック(株) (音楽)

(有) ゲーテ書房 (ドイツ文学・語学・フランス文学)

(株) 国際書房 (法律・理工・医学)

(株) 極東書房 (人文・社会科学)

(株) 教文館 (宗教・哲学・英米文学・社会科学)

日本洋書販売配給(株)(洋販) (外国雑誌・ペーパーバック・リプリント)

(株) 東光堂書店 (建築・美術・デザイン)

株式会社 国際書房

東京都千代田区小川町3-5 TEL. (292) 4951
札幌事務所 札幌市琴似町新川 272-43

昭和45年3月 通巻第35号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329